

## 今期大学院部会の主要検討議題の設定に向けて

### 【頂いたご意見（まとめ）】

#### 1 博士課程修了者のキャリアパス

- 1.1 博士課程修了者の大学による売り込み、新しい採用活動のあり方
- 1.2 博士課程学生の社会的地位の確立（経済的な自立、待遇の向上、これを作り出す博士教育）
- 1.3 マーケットインによる博士と社会の接続（博士→民間の強化）
- 1.4 PhDホルダーのコミュニティ内での役割
- 1.5 パブリックセクターにおける博士人材（特に人文・社会系）の活用
- 1.6 広報宣伝、啓発の充実・強化

#### 2 修士学生の就活のあり方の転換（課程修了後に就職活動すべき）

#### 3 人文・社会科学系の大学院の問題

- 3.1 人文・社会科学系で修士課程の学生をどう増やしていくのか（1 と分けた上で議論すべき）
- 3.2 パブリックセクターにおける博士人材（特に人文・社会系）の活用（再掲）

#### 4 社会人博士を増やすための施策（産業界・大学が一体となった取組）

- 4.1 社会人博士促進に向けた社会的構造の転換（民間の管理職昇任時には博士を取る、アカデミアのテニユア前に民間を経験する等）
- 4.2 チームサイエンスの推進（特に人文・社会科学分野）
- 4.3 PhDホルダーのコミュニティ内での役割（再掲）

#### 5 キャリアアップに向けたオンラインを活用したリカレント教育

- 5.1 企業が金を出してでも学ばせたい大学院 DX 施策
- 5.2 専門職大学院におけるリカレント教育

#### 6 経済支援という大きな障害が払拭された後に残る、大学研究者の魅力といった面での課題

- 6.1 学生の comfortable な教育研究環境の構築
- 6.2 大学院生から見えている近未来（若手教員の処遇・研究環境）の改善

#### 7 コースワークの充実

- 7.1 ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた講義活動等の工夫の横展開
- 7.2 学部の頃から志を高め、モチベーションを維持し、博士課程に行きたくするようなプログラムのあり方

7.3 リモートも含む講義の英語化

7.4 オンライン授業を活用した大学院教育の充実と海外人材の呼び込み

## 8 地域社会と大学院のあり方（地元企業との付き合いだけではない次元）

## 9 必要とされる博士人材の質と量

9.1 人文・社会と理工系の間での需要と供給の在り方の違いの整理、受容と供給のバランス

9.2 社会全体（企業だけでない）の博士人材への評価や期待する点と、大学側が育てたい博士人材や、どのように能力を生かしてもらいたいかの擦り合わせ

9.3 学位プログラムの位置づけ

## 10 ジェンダー、ダイバーシティの問題

## 11 これまで講じた施策の成果の検証（大学の改革疲れを含む）

11.1 毎期似たような議論を繰り返している。いまだ解決できてないことをしっかり議論する時間が必要

### 【留意・意識すべき事項】

- ✓ 毎期似たような議論を繰り返している。いまだ解決できてないことをしっかり議論する時間が必要（再掲）
- ✓ 文系・理系ではなく、自然科学、人文科学、社会科学といった表現を
- ✓ 「企業」という言葉の捉え方が変化していることを意識すべき（重厚長大の製造業系大企業のイメージではなくなっている、転職が前提）
- ✓ ポストコロナ時代における、人材の循環を前提とした受皿づくりという観点
- ✓ 「社会で活躍する」の視野を広げる（自然科学系の研究者と企業だけでは立ち行かない局面）
- ✓ 中長期的な新しい視点も少し取り入れたい（人生90年の時代を前提とした人材育成のあり方等）
- ✓ 博士後期課程の諸課題政策の統合的な評価と実効的な施策検討に向けた、中教審（院部会）と科技審（人材委員会）の合同部会の設置（再掲）

## 【事務局整理案】

博士課程学生への経済支援や大学ファンドの設置等を踏まえ、大学院教育の実質化に向けて残された課題の整理及び具体的な施策の検討が必要。

中でも今後特に重要と考えられる以下の3点を中心に、具体的な施策に向けた検討を進めてはどうか。

### ① 昨今の政策動向を踏まえた上での大学院教育のあり方について

- ・ 経済支援の拡充がなされた現状において最重要課題と思われる博士課程学生のキャリアパス確保に向けて、文部科学省・大学院部会としては、人材の供給サイドに根差した課題整理と取組（大学院教育の実質化）が重要。
- ・ 次代を牽引する知のプロフェッショナルに必要な能力の育成を、大学院教育全体（研究室教育・コースワーク）の中でどのように実質化していくか、その質の保証や教育評価のあり方について、研究分野や領域毎に具体的な検討を進めてはどうか。

### ② 人文・社会科学系の大学院のあり方について

- ・ 自然科学系に比して議論・検討が手薄となっている人文・社会科学系の大学院教育について総合的な検討が必要ではないか。

### ③ 大学院におけるリカレント教育の振興について

- ・ 国の支援がストレートドクターに集中している中ではあるが、今後の大学院教育のあり方を検討する上では、リカレントに着目した議論が必要ではないか。

なおテーマ設定や今後の議論の進行にあたっては、科学技術・学術審議会人材委員会等の関連する審議会等の動向を踏まえ、政府としての議論の全体像を整理した上で、適切な連携や必要な分担を図っていく。